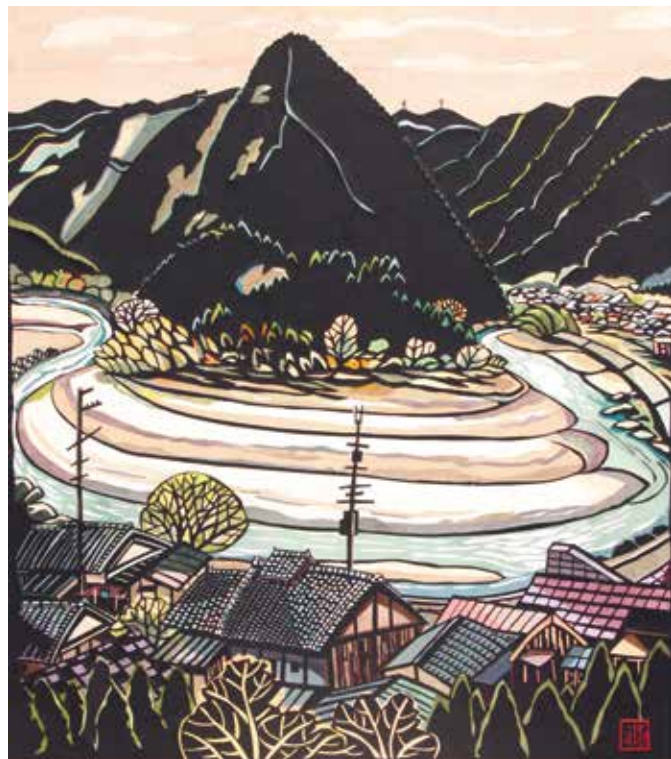


いにしえ
上古の里

国栖



絵題:「国栖紙の里」

題字:福西 弘行
絵:福居 健作

まちづくりマップ

行事

●1月14日 とんど

各大字の川原で正月の松飾りやしめ縄を持ち寄り、近くの竹藪から竹を集めて組み燃やし一年の無病息災を願い、残り火で正月の餅を焼き賑わいます。



●旧正月の14日 国栖奏

応神天皇19(288)年10月に天皇が吉野の宮に来られたとき、国栖人が一夜酒を造り、歌笛を奏したのが始まりとされています。その後壬申の乱(672年)の功績により、天武天皇より「権の正」の位、桐竹鳳凰紋の装束、鈴、笛、鼓、黄金の幡を賜り「翁の舞」と名付けられ、宮中の諸節会、大嘗祭に約500年の永きに亘り参内して奉奏してきました。保元、平治の乱等により参内出来なくなり、国栖人は、天武帝を祀る浄見原神社を造営(1185年と伝える)、毎年旧正月14日を祭礼日と定め、連綿と古式ゆかしく執り行われています。



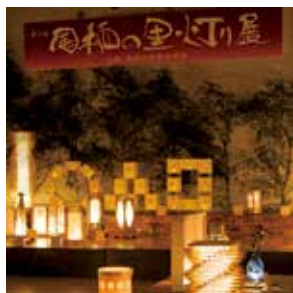
●8月15日 花火大会

●9月1日 八朔祭

●旧暦8月15日 中秋 芋名月

●10月上旬 国栖の里灯り展

国栖の里で開催される灯りのアートイベントです。和紙や割箸などの吉野の素材を使ってつくられたオリジナルの灯り作品が会場一面に展示されます。



●11月23日 秋祭り

かつては、各大字で11月の新嘗まつりの祭典後に子どもが大鼓台に乗り太鼓を打ち鳴らし、担ぎ手とかけ声を掛け合いながら賑やかにその地域をまわります。



国栖へのアクセスガイド

●自動車

- ・西名阪自動車道「郡山I.C」から約1時間30分
- ・名阪国道「針I.C」から約50分

●鉄道

- ・近鉄阿部野橋駅～大和上市駅 特急で約1時間10分
- ・近鉄京都駅～大和上市駅 特急で約1時間30分
- ※大和上市駅からは町営のスマイルバスをご利用ください(約30分)。
- 詳しくは吉野町協働推進課(0746-32-3081)へ

協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、様々な地域でマップづくりを行っています。平成25年度は次の地区で作成しました。

国栖 (吉野町)

■このマップは「国栖の里観光協会」、「国栖の里ほりおこし会」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(事務局:奈良県地域デザイン推進課)」が協働で作成しました。

■平成26年(2014年)3月発行

■問い合わせ先:

- | | |
|--------------|------------------|
| 国栖の里観光協会 | TEL 0746-36-6838 |
| 吉野町文化観光交流課 | TEL 0746-32-3081 |
| 奈良県地域デザイン推進課 | TEL 0742-27-7515 |

国栖の歴史

●古代の国栖

国栖は、古事記に「國主・國巢」、日本書紀に「國櫛」、新撰姓氏録に「國栖」と記されています。

今から2,670余年前の神武東征のみぎり、熊野より大和に入り吉野に着いて更に進むと、尾のある人にお会いになりました。この人は巖を押し分けて出てきました。天皇は「おまえは誰か」と尋ねると「私は国つ神、石押分の子といひます」とお答えしました。これは吉野の国栖の祖先です。そこで天皇は「おまえに国栖の名を与えよう」と言われ、天皇の道案内をして大和平定に尽力しました。

第8代孝元天皇38(紀元前177年)6月17日創建と伝わる大蔵神社の御祭神(三柱)に石押分命が祀られています。境内近くに国栖人穴居遺跡の「ガニ岩」(付近を焼神という)があります。

ときが流れること約450年、応神天皇が吉野の宮に来られたとき、国栖人が一夜酒を造り「櫻の木の茂る丘に横臼を作って醸したお酒です。おいしく召し上がって下さい。私たちの親父さんよ」と歌い、歌終わって、口を掌で叩いて仰いで笑いました。これが「笑いの古風」であり、古事記が編纂された当時でさえも「上古の遺則」と書かれています。



国栖の特産品

●吉野和紙

吉野和紙は、明治中期頃に全盛期を迎え、第二次世界大戦を境に需要が減ったものの、近年になっては優れた風合いと粘り強さを備えた高級和紙の良さが求められています。楮を清流にさらし、一枚一枚丹念に漉いた和紙が庭先に干される様は冬の風物詩です。このような状況を谷崎潤一郎は『吉野葛』の中で記しています。

現在も昔ながらの手作業で漉き上げられ、暖かい手触りが心を和ませてくれます。優れた紙が生まれる何よりの条件は、美しい空気と清らかな水に恵まれること。その点では、ここは紙漉きに恵まれた山里といえるでしょう。



●近代の国栖(明治以降)

この地で漉かれている吉野和紙は、大海人皇子(後の天武天皇)が、吉野川の清流と気候、風土が紙漉きの業に適していると国栖の里人に奨励したことに始ったといえられ、明治の中期には150戸余りの紙漉く家がありました。度重なる大戦により男手が取られ、戦後はわずか40戸余りとなり、その後、手漉き和紙の伸び悩みにより割り箸づくりへの転業を余儀なくされました。現在では、伝統の技法を受け継ぐ6軒の家が紙漉きを営み続けています。

また、吉野川を利用した筏流しが材木搬出の主流であった頃、国栖の里は筏流しの中継地として栄えました。村内には料理旅館、カフェなどの店舗が並び多くの人々が行き交い、賑やかで活気にあふれていました。やがて陸路の整備が進むにつれて、村の様相も急激に変化していきましたが、今も街道には、当時の面影を僅かに見ることができます。



かつての天満座

吉野町は、平成24年10月に、美しい景観や伝統文化を守ろうと取り組むNPO「日本で最も美しい村」連合に加盟しました。これは「伝統の技が生きる国栖の里」を地域資源として申請し、資格審査で「日本の原風景」と最高ランクの評価を得たもので、町内では吉野山地区とともに登録されました。連合加盟をきっかけに、景観や文化を守り伝える気運を町全体で高めていく取り組みが期待されています。

万葉・記紀にも記された国栖は、古の国栖人の心を誇りに思う里人が暮らす日本人の憧憬の地です。



the most beautiful villages in Japan
吉野町

●割り箸

吉野割り箸は、明治の初め吉野杉材で作る酒樽の端材が捨てられるのを惜しんで考案されたのが始まりとされています。現在では、原木を建築材に製材し残った端材(背板)を利用しています。杉や桧の自然素材を活かし、森の恵みに感謝しながら一膳一膳丁寧に作られています。美しい木目、芳香漂う杉箸、天然抗菌の桧箸いずれも吉野の古人(いにしえびと)の知恵から生まれた伝統産業です。



いにしえの里 国栖



①大蔵神社

第8代孝元天皇38年(BC177年)の創建と伝わる、国栖の遠祖、石押分命及び、大蔵姫命、鹿葦津比売命をお祀りする国栖地区六大字の氏神さんです。古くは、大蔵大明神、大倉の宮ともいわれています。境内社に進雄命(地主神)、牛頭天(素戔鳴命)、弁財天(市村島姫命)をお祀りしています。例祭は9月1日(八朔)です。大蔵神社庭園の創造年代は、室町中期を下らないと考えられ、日本庭園史上からも尊重すべきもので、県指定名勝に指定されています。

なお、全国神社名鑑によると、式内社川上鹿塩神社はこの神社であるとされています。



②入野の子安地藏

入野の人々から、安産、子供の病気、悪い癖までも治してくださいと信じられている「子安地藏尊」は、大きな亀の背に座ったお姿で、白塗りのお堂に安置されています。縁起書物によると霊亀元年(715年)8月に、霊亀の背に乗った黄金の尊像が光りを放ちながら「亀の尾」という処へ天から下ったのを見てお祀りをしたということです。



③白狐園(谷崎潤一郎の歌碑)

旧国栖小学校に上がる校道の中ほどに白狐園があります。昭和5年(1930年)晩秋に、小説「吉野葛」執筆のためこの地を訪れた谷崎潤一郎が「ゆふさればくぬきはやしに 風たちて 国栖のやまさと 秋を来ぬらし」の歌を詠み、その直筆を吉野の自然石に彫った歌碑がたてられています。



④犬塚

壬申の乱(672年)の時、大友皇子と皇位継承争いをくり広げていた大海人皇子が国栖に逃れ、国栖の翁という者が河原で舟をさかさにして皇子をかくまいました。追っ手が連れた犬(嗅ぐ鼻の犬)にかぎつかれそうになりましたが、翁の機転で追っ手が犬を殺し、皇子は

事なきを得ました。国栖の人は死んだ犬を哀れみ御霊神社の裏山に葬りました。その地を犬塚と呼んでいます。そのなごりで、窪垣内では犬を飼わない風習が残っています。



⑤達中寺・薬師堂

達中寺は、室町末の開山とされています。ここには、二種類の大般若波羅密多経書写本と両界曼荼羅図の大幅が所蔵されています。何れも鎌倉・室町時代の宝物です。薬師さんは、霊験あらたかな仏様で、正月八日の七薬師に参ると、薬ばかり飲んでる人でも治るといい、初薬師には境内が一杯になるほど賑わいました。



⑥御霊神社

御霊神社は、大海人皇子伝説にゆかりの神社で、皇子を助けた人を祀ると云われています。窪垣内の集落の氏神様で、どこのお宮様にもある狛犬がここにはありません。拝殿には、大海人皇子をお助けしたときの伝説の石が置かれています。この神社には今も「昔の祭り」と云われる夜の奇祭が残っています。



春の入野の桜



冬の紙漕の里



秋の南大野の紅葉



夏の高見川

⑦菅原神社と太鼓おどり

菅原神社は龍泉寺の西北に鎮座。国栖の太鼓おどりは中央の大太鼓と、その前に並んだ編み笠姿の歌い手の女たちのまわりを、子どもたちが小太鼓を打ちながら踊り、その子どもたちを守るように、はかま姿にたすきがけの男たちが周りを踊ります。もともとは雨乞いの踊りであったとのことですが、長い年月の中で磨かれ、メロディーも踊りも洗練され格調の高いものとなって受け継がれてきたものと思われます。



⑧ジジ河原、ババ河原

高見川と吉野川が合流するあたりにあります。白鳳2年(672年)「壬申の乱」の時に、大友皇子の軍勢に追われた大海人皇子を 国栖の翁が舟を返して中にかくまいお助けした場所といわれています。



⑨大野の渡し船(渡し場)

かつて国栖地区には窪垣内と南大野の2カ所に川向かいの集落と行き来する手段として、渡し舟がありました。結婚式の花嫁が舟に乗ってわたったことが話題になりました。南大野の渡し場には、今は立派な「吉野渡し場大橋」があり、渡し場跡や、吊り橋跡が見られます。



⑩十王峠とイボトリ水

県道262号線で国栖から南国栖に行く間の国栖トンネルの上に十王峠があります。ここに、長さ20m、高さ2.6mの手掘りのマンボリ(トンネルの事)があり、峠の頂上には、僅かな広場があってイボトリ地蔵が祀られています。峠の広場から新子側へ下った処に土手を掘りこんだところに「イボトリ水」があります。



⑪浄見原神社

この付近一帯を天皇さんといひ、天皇湖を眼下に見おろす和田巖窟に天武天皇をお祀りしています。又、近くには大海人皇子が幾日かお住まいになられた飯屋さん、皇子御手植えの大榎(オクスギ)、御自ら腹赤の魚(ウグイ)を調理なされた狙場がある皇子縁の地です。



⑫片腹淵

「壬申の乱」の時に、国栖の里人は吉野に居られた大海人皇子に山と川でとれた産物を献上していました。皇子はその中の腹赤魚(ウグイ)の半身を召し上がられ残り半身を川に放して「この魚が生きて泳ぐならば、私には良いことがある」と、ご自身の武運を占われたところ魚は、勢いよく泳ぎ大変お喜びになられた。大海人皇子は戦乱で勝利を収められ、天武天皇となられました。その占った場所を片腹淵と呼んでいます。



- うれし峠** 大海人皇子が通った峠といわれています。
- 司馬の野** 丹生川上神社(蟻通さん)へ献上する黒馬(折雨)、白馬(止雨)を養っていた所といわれています。万葉集に「国栖等が、若菜つむらむ司馬の野の、しばしば君を思うこの頃」とあります。
- 耳ヶ嶺** 天武天皇が万葉集(巻1)で詠んだ嶺といわれています。